

いにしえの人々に思いをさせて **5kmコース**

西国街道浪漫コース

コンセプトポイント



1 長松寺

境内には「天童山老典座和尚(てんどうさんろうてんぞおしょう)と若き日の道元禪師(どうげんぜんし)」と書かれた彫像があり、道元が24歳のとき、正法を求め宋に渡り、天童山にいた時の逸話が紹介されている。寺の前には濠があり、かかる石橋には「元禄四年(1691年)寄進念仏講」と刻まれ、この寺の歴史を物語っている。

チェックポイント 境内には樹齢150年を超えるイチヨウの樹がある。



2 五社宮野口神社

神社の主神は日吉大神で、比叡山延暦寺の守護神日吉大社から分霊を迎え、のちに四柱の神を合わせ祀ったという説もある。神社の西にある教信寺は延暦寺の末寺であることから深いつながりがある1月18、19日に厄神大祭、7月28日に夏祭、10月15日に近い日曜日に例大祭を行っている。

チェックポイント 塀沿いの東側の角には、昔、西国街道を行きかう人々が目印にしていた道標がある。



3 教信寺

天台宗の寺院で、本尊は阿彌陀如来(あみだによらい)。平安時代前期の僧、教信上人(きょうしんしょうにん)がこの土地に庵を作り、庶民仏教の普及に努めた所である。幕末期に、本堂を焼失したが、明治に書写山円教寺の念仏道場を移築したのが現本堂となっている。また、教信上人の命日には、毎年、「野口念仏」と称し、会式を行っている。



4 胴切れ地蔵

その昔、西国街道を通る大名行列の前を横切った男が侍に斬られてしまったが、ふと気がつくとい何事もなく無事だった。そばを見回すと、普段お参りしているお地蔵さんの胴が二つに割れ、男の身代わりとなっていたという伝説が残っている。それ以降近隣の人々が「胴切れのお地蔵さん」と呼び、大切に祀っている。

チェックポイント 後ろに回ってみると、地蔵の胴体が二つにわかれていることが確認できる。



5 うだつの上がる家

うだつは元々、火事の延焼を防ぐために作られていたが、江戸時代中期ごろから徐々に装飾の意味合いが強くなっていった。うだつを上げるためにはそれなりの出費が必要だったことから、これが上がっている家は比較的裕福な家に限られていた。そのうだつの上がっている家が、溝の口の西国街道沿いに残っている。

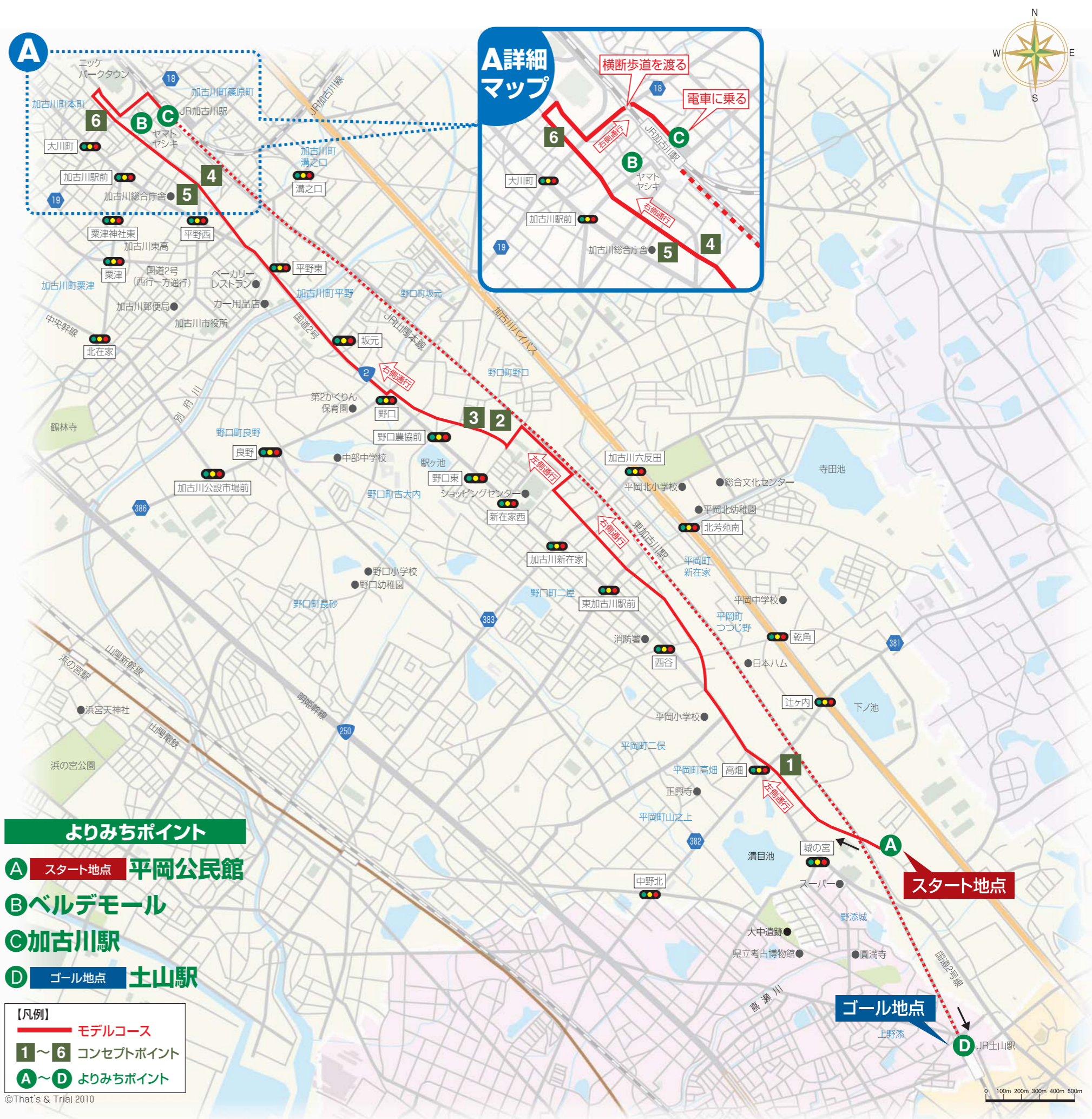
チェックポイント 「うだつの上がない」という言葉は上記のことからきている。



6 寺家町

「寺家町」はJR加古川駅の西側一帯の大字名で、寺院がこのあたりに莫大な領地を所有していたことから、この名がつけられたと言われている。江戸時代には西国街道の宿場町「加古川宿」として栄えた。

チェックポイント 商店街の中にある陣屋は、1752年に建てられ、参勤交代の為に西国街道を通る大名の宿泊施設として使われた。



よりみちポイント

- A** スタート地点 **平岡公民館**
- B** ベルデモール
- C** 加古川駅
- D** ゴール地点 **土山駅**

- 【凡例】**
- モデルコース
 - 1~6** コンセプトポイント
 - A~D** よりみちポイント

©That's & Trial 2010